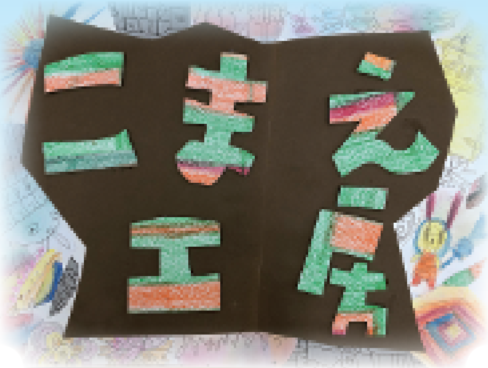
2022年5月発行

かがやき

No.133



「ご利用者作品」【こまえ工房】

「ご利用者作品（ハーバリウム）」【こまえ工房】

「花壇の花植え作業中」【ひばり野園】

「菌床椎茸の収穫」【ひばり野園】

INDEX

第３回知的発達障害部会総会……………………2
第34回福祉マラソン大会　……………………3
事務スタッフ学習会………………………………4
栄養調理スタッフ会………………………………5
人権擁護委員会「じんけんBoard」…………6
施設紹介「こまえ工房」…………………………8
施設紹介「ひばり野園」…………………………9
リレーコラム、編集後記……………………　10

●発行者　知的発達障害部会　部会長　小池　朗　　●編集　知的発達障害部会　広報委員会
●発行所　東京都社会福祉協議会
〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸1-1　TEL 03-3268-7174　FAX 03-3268-0635
●知的発達障害部会ホームページ（https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html）からもご覧いただけます。

令和３年度　第３回総会（新年総会）

調布福祉園　佐藤　隆司

年明け早々にオミクロン株の急激な感染拡大があり、まん延等防止重点措置が適用されるなどいまだ続くコロナ禍の影響を受けて第３回の総会は前回と同様にWebでの開催となりました。「議決事項」と「報告事項」については、総会資料を郵送するとともに、令和４年１月31日（月）～令和４年２月６日（日）の期間、部会会員専用ホームページ上で説明動画を公開。「議決事項」は文書審議にて決議を採りました。

また、総会と合わせて開催された「東京都の行政説明」と「記念講演」は令和４年２月２日（水）10：00～12：00にzoomウェビナーにてライブ配信されました。

●議決事項

① 令和３年度補正予算（案）について
② 令和４年度部会費の徴収について
③ 令和４年度事業計画（案）について
④ 令和４年度予算（案）について

補正予算案では、新型コロナウイルス感染症の影響により、役員会、研修、イベントなどはオンライン開催がメインになったため参加費が減収となった。旅費交通費、会場の賃借料などは逆に支出が抑えられた。これらの理由から補正が必要となったこと、次年度の予算案についてもこれらを踏まえた予算案となったことなどが説明されました。また、このような背景から部会費の徴収は、一律25％減額することが提案されました。これらの議決事項は後日文書審議にて決裁を採り、過半数の承認を得られたため可決されました。

●報告事項について

① 令和３年度叙勲・表彰受章者のご紹介
（社会福祉法人　からしだね　うめだ・あけぼの学園　加藤　正仁　氏が瑞宝双光章を受章）
② 大規模災害時対応マニュアルについて
③ 東京都地域公益活動推進協議会　令和４年度からの全加入組織に向けて
④ 本人部会からの報告（本人部会会長の渡辺隆亮　氏より発表）
⑤ 感染症対策衛生用品の備蓄および、災害等見舞金のご案内

それぞれの事項について、各担当者から資料を基に説明がありました。また、フェイスシールド、アイソレーションガウンの備蓄品があり、「災害見舞金」を設置しているので有事の際には、活用して欲しいとのご案内がありました。

●東京都の行政説明

① 令和４年度予算案のポイントについて
② 主要事業について
③ 新型コロナ対策関連事業について
④ 連絡事項

東京都福祉保健局障害者施策推進部の担当者より、主要事業のうち新規事業および新型コロナ対策関連事業等について説明がありました。また、連絡事項では事故防止対策、虐待防止体制整備の徹底について呼びかけがありました。

●記念講演

「障害者の文化芸術活動と権利について」おおきな木　加藤　未礼　氏よりご講演をいただきました。

加藤氏は人々の想いを形あるものにデザインしていく「コミュニケーションデザイナー」として、主に障害のある人が通う福祉施設の商品企画のコーディネートを通して、福祉職員のミッションを共にデザインをするという活動をされており、東社協知的発達支援部会　文化・芸術活動支援特別委員会の立ち上げからアドバイザーも務めていらっしゃいます。

講演では障害者の文化芸術活動の話がデザイナーの視点から展開されるところがおもしろく、ワクワクしながら聞かせて頂きました。何かヒントを得た人も多かったのではないでしょうか。貴重な講演をありがとうございました。

第34回心をつなげる福祉マラソン大会　報告

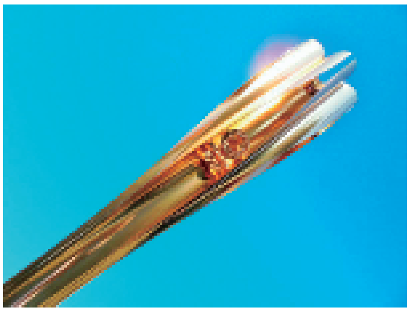
大会実行委員長　荒木　一彦

　第34回心をつなげる福祉マラソン大会は、第32回大会（2019年11月）以来の２年ぶりの開催予定でした。私たち実行委員会は、１年以上も前からウィズコロナの観点から大会開催方法を見直し、検討を重ねてきました。そのウィズコロナのノウハウを取り入れるために、大会会場である荒川河川敷でマラソン大会を企画運営している業者「團コミュニケーションズ」と連携をはかり、毎回実行委員会にも参加してもらいました。新型コロナウイルスの感染対策として、ランナーが密にならないよう種目ごとにスタート時間をずらしたり、ピグタグといった自動タイム計測を導入することでタイムの読み上げをなくしたりと、参加者のみなさんが安心して参加できるようにと考えてきました。

　今夏には、東京2020オリンリック・パラリンピック大会が開催されたことで、より大会を成功させたいと意気込み、大会準備も加速してきました。８月には、Tシャツやプログラムのイラストデザインを公募し、これまでの最多である65点の応募がありました。どれも走ることを楽しみにされている思いが伝わってくる絵ばかりでした。９月には、大会開催要項を配布周知。FAX送付による申し込み方法だけでなく、インターネットによる申し込みと同時に初めてホームページによる大会周知も導入いたしました。そして私事ではありますが、これまでの大会実行委員会による活動が認められ、「オリンピック聖火ランナー」に選ばれたので、大会当日皆さんに「聖火トーチ」を手に取ってもらおうと企画していました。

　12月末の最終的な大会応募人数は、伴走者も合わせて186名の方が申し込みをされ、ランナーの皆さんの期待を背負って万全な体制を整えておりました。しかし、１月に入り急激な新型コロナウイルス感染拡大の猛威に、大会は中止せざるを得ませんでした。大会参加を楽しみにされていた皆さん、本当に申し訳ございませんでした。

　しかし、これまで開催に向けて準備を重ねてきたことは、次大会（2023年２月19日（日）開催予定）に必ず活かしてまいります。いまは一刻も早く、新型コロナウイルス感染が終息し、大会で皆さんと笑顔でお会いできることを願っています。



東京2020聖火トーチ

記念Tシャツデザイン

大会プログラム表紙

利用者支援研究会事務スタッフ学習会

「社会福祉法人会計の基礎・情報交換会」

事務スタッフ会　幹事
白州いずみの家　遠藤　美沙子

事務スタッフ会今年度最後の学習会は「社会福祉法人会計の基礎･情報交換会」を行ないました。これから始まる決算を前に日々の経理事務を改めて見直し、他施設と情報交換をすることで業務の疑問点や不安を解消して欲しいという思いで開催しました。

今回の学習会は厚生労働省が作成した「基礎から学べる研修動画　Eラーニングで学ぶ社会福祉法人財務会計」を視聴するかたちで行ないました。動画は全部で３部構成になっており、学習会では社会福祉法人の会計基準と経理事務の基本・日常の経理事務について学習しました。引継ぎや実務の中で業務を覚えることが多く、また事務マニュアルがない施設が多いため参加者の皆さんはメモを取りながら真剣に見入っている印象でした。なかなか自分では動画を見る時間が作れない中、動画を見て学習する時間を作ることは、これから決算を迎える中で基本を見直すきっかけになったのではないかと思います。またYouTubeの利点を生かし、分からなかったところや見逃してしまったところは各自視聴できたら良いのではないかと思います。

後半の情報交換会ではグループごとに業務を行なっている中で感じている疑問点や不安などを話し合いました。オンラインによる難しさもありましたが､各グループとも多くの意見や感想があり、コロナ禍で横のつながりが少なくなってしまった今、とても有意義な時間だったのではないかと感じています。参加者の皆さんからも「事務職員が少ないため閉塞感を感じていたが、みんなも同じような疑問点や思いを感じていて安心した」「横の繋がりを大切にしたい」などの意見があり、今後もこのような機会は大切にしたいと思います。

今回は新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えたため、今後に向けて幹事だけでも会場に集合し、ハイブリット型での試行をする予定でしたが､残念ながら年明けから再び急拡大したため、オンラインのみでの開催となってしまいました。今年度は、幹事会を含めて全てオンラインでの活動になりましたが、一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、対面での学習会が再開できることを願っています。

「レシピ集」について

栄養調理スタッフ会　代表幹事　**尾池　由梨香**

2021年度のレシピ集は「春・夏行事食」です。東社協でアンケートを取りレシピ集を作成しました。前回は「利用者人気メニュー」でした。会員施設の方よりレシピ集についてはもっと作成してほしいという意見があり、今回作成させていただきました。

～レシピ集を求める理由～

管理栄養士・栄養士は施設に１人配置が基本ではないでしょうか？献立や業務で困ったとき相談できる相手は身近にはいません。レシピ集の作成を望まれる方が多いのはこの背景も影響しているのかなと感じています。

～レシピの反響～

二度にわたり作成してきましたが、とても良い反響をいただいています。他施設のレシピを知ることで献立にメリハリがつき、新しいメニューの導入につながります。そして、ご利用者様のお食事の満足度向上つながります。ご意見を受けて、皆さんレシピ集を参考にされて献立作成をしてくださっているなと感じることが出来ました。幹事としてはそのお声がやりがいにつながり、次回何にしようかと作成につなげていくきっかけになっています。

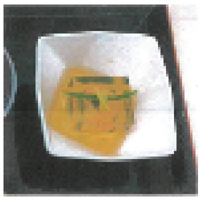
～今後の活動～

レシピ集の作成については今回の反響を待たず、作成をする方向で考えています。「春・夏行事食」のように季節に限定することで献立作成時期の逆算をしていくと２ヵ月前には作成をしている施設が多く、テーマによってはレシピ集を出した時点で使うことが出来ず、来年になってしまうこともあります。レシピ集を提出させていただいているのが毎回冬季となっています。次回のテーマがどのようなものになるのか未定ですが、会員施設の皆様へ少しでもお力添えができるよう私たち幹事もより良いレシピ集の作成を目指していきます。幹事施設のみではレシピ集は完成しません。皆様からのレシピの提供のご協力があってレシピ集は完成しています。

１人業務で抱える仕事もたくさんあり、時間が足りない中お仕事をされている方も多くいらっしゃると思います。「働き方改革」という言葉が世にはありますがなかなか定着しない職種でもあると思います。レシピ集に限らず今後も学習会などの企画・運営を担い、皆様にとって必要である時間を作っていきたいと思います。

施設名		施設HP	

レシピ名	海老と菜の花のゼリー寄せ	カテゴリ	副菜



＜材料　1人分(g)＞

材料名	グラム
菜の花	40g
えび(小)	1尾　15g
合わせ出汁	30g
みりん	4g
薄口醤油	4g
アガー	2g
青ねぎ	0.5g
ゆず皮	0.5g

おすすめポイント

春先のひな祭り献立や花見弁当におすすめです。中に入れる具材も自由にアレンジしやすいので、緑がきれいな春の豆類や彩りがよい夏野菜でも作ってみてください。今回は寒天の型に流して固めましたが、透明なゼリーカップに注いだり、クラッシュして出汁ジュレとして小鉢に盛り合わせてもいいと思います。

＜作り方＞

①合わせ出汁、みりん、薄口醤油をあわせ、アガーを少しずつ加えてダマが無いよう混ぜ合わせる
②①を80度以上に加熱しアガーを溶かし合わせる
③②の2/3程度を型に流して粗熱を取る
④③のゼリーが少し固まってきたら等間隔に菜の花とえびを入れ、②の残りの液を静かに加える
⑤④を冷やし固め、1人分ずつ切り分ける
⑥青ねぎとゆず皮を添える
⑦濃いめの合わせ出汁(分量外)をかけて提供。出汁割りポン酢なども合います

エネルギー	33	kcal	たんぱく質	4.9	g
脂質	0.1	g	食塩相当量	0.8	g

じんけん Board

わたしの ホッと ニヤり

支援を通した利用者とのかかわり、
ご家族との会話の中や地域の方など
人が集まるところで偶然出会う瞬間に、
「ニヤり」としたり心が温かくなったりすることがあります。
自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、
「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

行事を立案する際に、行事の名前や内容も様々な工夫がされていて素晴らしいなと思いました。どうすればご利用者に喜んでもらえるのか！その思いが伝わります。

フロアの危険箇所を報告していた支援員。思っていても簡単そうで難しい事だと思います。いつもの支援の中で、細かい所に目を向けているなと思いにやりとしました。同時にとっても刺激を受けました。

いつもゆっくり食事をし、時間に間に合わないご利用者に対して、「美味しいですか？どんどん食べてくださいね」と促していた職員さんがいました。優しく肯定的な声掛けでにやりとしました。

イベント実施の際に、今までにやったことのない内容を考えてくれていました。また、伝わりやすいようにポスターなどを作成していました。障がい特性に合わせた支援素敵です。

いつも職員のお手伝いを積極的にしてくださるご利用者ににやり。

職員体制が薄い中でもフロアのモップ掛けを全てしてくださった支援員がいました。少しでもご利用者の皆さんの環境を良くしようとする姿勢が素晴らしいと思いました。

手が空くといつもご利用者に寄り添い、近くに座って話を聞いている支援員。笑顔でお話している支援員とご利用者の皆さんにホッコリしました。

ご利用者の細かい要望にも丁寧に答える支援員ににやり！言葉づかいも丁寧で落ち着いていて真似したいです。

いつも勤務の帰り際に段ボールなどのゴミ捨てをさりげなくしてくれる職員さんににやりです。こういうちょっとしたことって大事だなと思いました。

勤務中、いろいろなことが重なって焦っていたところ、声をかけてくださった職員さん。いつも周りを見て気にかけ、気を配ってくださるところ尊敬します。

川柳ぼーど

支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしています。

最優秀作品

今まさに　自分の引き出し　開けてみて

作：ハムスター

作品背景

支援員としてまだまだ知識、経験不足ですが、保育士の勉強の知識を活かしつつこの状況で利用者様が楽しめる工夫はできるはず。それが何より、自分のスキルアップでもあると思いました。

優秀作品

寒暖差　この服がいい　おしゃれさん

作：のんべ～

作品背景

季節の変わり目の中、寒い日と暑い日でも「この服がいい」と言う入居者さん。職員がインナーなどを調節してお気に入りの服を着れて満足していました。

入選作品

なぞなぞが　会話のきっかけ　広がる輪

作：ポムポム

作品背景

何気なく共用ホワイトボードになぞなぞを書き始めたところ、職員、利用者問わず、意外とみんな考えてくれて、分からないからこそ自然と「ここがむずかしい」「ここまでは分かった」など会話が生まれていてホッコリした、という気持ちを思い出すことができた。

大きな声　元気とわかり　ホッとする

作：ソラ

作品背景

大きな声で話をしているのを見ていると、今日も元気で良かったと思える。

活動に　行きたくないよ　やっぱ行く

作：ハッピーボーイ

作品背景

活動の声掛けをすると初めは「行きたくない」と嫌がっていたが時間が経つと「やっぱり行く」と気持ちが変わった様子でした。

まだ眠い　お腹が空いた　ご飯行く

作：おいおい

作品背景

起床時まだ眠たいようで、なかなか起きることが難しかった。「ご飯ですよ」と声掛けをするとお腹が空いてきたのか、しゃきっと起きることができ朝食に行っていた。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

①「わたしのニヤリ・ホッと」

②「誰か教えて！私の支援間違ってない？」

③「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします（その旨記載してください）。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸１－１
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
知的発達障害部会 人権擁護委員会　宛

FAXの場合

０３－３２６８－０６３５
知的発達障害部会　人権擁護委員会　宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局
chiteki@tcsw.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

施設紹介
こまえ工房

　こまえ工房は多摩川に面した東京の小さな街「狛江市」にあります。日常生活を豊かに過ごす「生活介護事業」と受注作業や自主製品の制作を行なう「就労継続支援B型事業」が一つになった施設です。こまえ工房の誕生には古い歴史があります。障がい児の保護者団体「狛江市手をつなぐ親の会」が開設した３つの福祉作業所を足立邦栄会が引き継ぎ、狛江市内の３拠点で活動をしていた事業所が2017年12月に一カ所に集まり、一つの多機能型事業所として活動を始めました。ここまでの道のりで地域の方々の熱い思いがたくさん詰まった地域密着の施設です。狛江市は、全国で２番目に小さい市ですが、市内には数多く古墳もあり、歴史と自然が豊かな地域です。天気の良い日の散歩では、たくさんのコースを楽しむことが出来ます。当法人の理念にもある「地域で住み慣れた生活を続けるための福祉拠点」として、多くのご利用者が通っています。

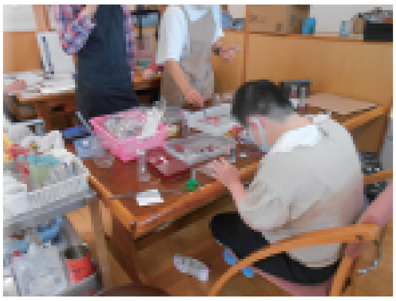
○生活介護事業

　日中、穏やかな環境と様々な活動を通して、自分らしく過ごしています。また狛江市内を中心に集めたエコキャップの選別作業を行ない、地域のエコ活動にも取り組んでいます。日々の活動の中には「バンド音楽」もあり、イベントで発表をすることもあります。絵や創作を中心とした作品も色々な所で評価を頂き、利用者の励みになっています。普段からそれぞれの個性を活かした、多くの活動で充実した毎日を過ごしています。

○就労継続支援Ｂ型事業

　狛江市内外の取引先から、仕事を頂き、様々な作業に取り組み、就業へ向けて取り組んでいます。また製菓作業では、サブレ・クッキーを中心に製造･販売を行なっており、月２回の店頭販売には、多くのお客様が立ち寄られています。仕事だけではなく季節の行事も楽しみ、グループ活動、定期的な体操や運動、プールなどと、バランスを取りながら日々頑張っています。こまえ工房は自分らしく通える地域の活動拠点です。

「野川ウォーキング」



「ハーバリウム製作中」

「クッキー販売中」

「いろいろ販売中」

施設紹介
ひばり野園
踏むな、育てよ、水そそげ

ひばり野園は東京都委託施設として平成４年７月に開園し、今年で30周年を迎えます。場所は秋田県羽後町の緑豊かなひばり野台地に建っています。

冒頭の標語は八幡学園の創始者、故久保寺保久氏が残されました標語です。当園では創立後より八幡学園のお許しを得まして、この標語を処遇の原点とし掲げております。

施設入所支援と生活介護では、東京より72名、地元秋田より８名の知的障害の皆さんが四季折々の行事を楽しみながら生活し、農作業や空き缶つぶしなど様々な作業活動をがんばっています。

開園当時、私たち職員の話す言葉を不思議そうに聴いていた方も、今では「どさ　いぎで」（どこへ行きたいですか)、「ゆべなの　まま　うめっけが」（昨夜のご飯おいしかったですか）等など、秋田の標準語もばっちり聞き分けできるようになりました。

農作業ではビニールハウスで菌床椎茸を栽培しています。椎茸の収穫や選別、乾燥椎茸用のスライス作業等を行い、地元の道の駅やスーパーに出荷し、とても好評を得ております。その他にも花壇の整備や様々な野菜も栽培しています。

その他の日中活動として､「生活訓練」「ポリパック作業｣､自閉症の方には「TEACCH プログラム」の一部を取り入れた作業等、個々の能力に応じたサービスの提供をしています。

令和２、３年度の新型コロナウィルス感染症蔓延禍では、夏祭り、ひばり野園祭の縮小、夏・冬季帰省の中止等、家族や地域交流の機会がなくなり、オンライン面会等実施しましたが、やはり物足りなさは否めない状況でした｡令和４年度では、コロナ禍以前の明るい状況になっていることを願います。

椎茸ハウスの入口の除雪作業中です。
今年も雪がいっぱい降りました。

創立後、版画家池田満寿夫氏が園のため特に揮毫された
オリジナル作品です。

乾燥椎茸は１袋500円（20ｇ×５個入）で近くの道の駅
やスーパーで販売しています。

収穫した椎茸をスライスし乾燥させます。

Relay Column 私の主張 44

福祉とは、実に“クリエイティブ”な仕事!!

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会　恩方育成園
施設長　**久保田美幸**

新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見えず有効な治療薬が待ち望まれる中、日々利用者に寄り添い、コロナと向き合い感染防止に取り組まれている同朋の皆様に「ありがとう。共に頑張りましょう！」とエールを贈り、一日も早い終息を願います。

昨今の障害福祉において、未だ経験したことがない重度・高齢化及び行動障害、医療的ケア、触法など私たちが取り組む課題は多岐にわたり、その上、働き方改革や人手不足は私たちの業界だけではなく全業界の課題となっています。

目の前にいる障害という生き難さを抱えている彼ら彼女らの暮らしや人生を支えていく私たちにとって、「共生社会の実現」と共に一人ひとりの「多様な“じりつ”の実現」私たちに求められ期待されているものは大きく、今、重大な岐路に立っていると感じています。

彼ら彼女らを主人公とした「願い」を共にデザインし必要な支援をプロデュース、環境設定をディレクトして演出する、その体験の中で同じ時を歩み共感し感動していく支援は、「ノンフィクション」であり「ドキュメンタリー」の人生ドラマです。

創造性（クリエイティブ）と科学的（サイエンス）根拠（エビデンス）に基づく仕事ですが、現実は地道で苦労も多くトライ＆エラーの連続であり、「誰もができる」仕事ではなく「専門性」が必要です。故に、相互の自己実現の瞬間には達成感と醍醐味があり、人と人とが相互に関わり合って共に成長していく過程と結果に、喜びや幸せに満ちた笑顔に多くの人が励まされてきました。彼ら彼女らの存在は、私たちを専門職（ソーシャルワーカー）へと育て導いてくれます。「この子らを世の光に」です。

編集後記

皆様のお手元に届く頃には、新緑の眩しい頃合いか、紫陽花の美しい季節かと思います。今を過ごす上で避けては通れない感染症。私の事業所でも2月にクラスターが発生してしまい、利用者様職員合わせて40名以上の罹患が確認されました。その間、職員は慣れない防護服に身を包み支援、利用者様は隔離状態の中。双方ただただ耐える１ヶ月半となりました。私のフロアの利用者様は全員陽性となりましたが、支援した職員は皆陰性。防護服などの感染症対策の効果を、身を持って知る事となりました。

マスクをせず、距離などを気にせず過ごしていたあの頃が、どこか遠い昔に感じられます。いつか来るあの頃を、笑顔で迎えたい今日この頃です。

すぎな会愛育寮　鈴木